

「情報公開文書」

研究課題名： 血清ピロリ抗体検査における酵素免疫測定法とラテックス凝集法の比較と胃酸分泌抑制薬による測定値への影響について

研究責任者： 浅沼 清孝、宮城県対がん協会

1. 研究の対象

本研究は 2016 年度に宮城県対がん協会倫理委員会と日本医療開発機構（AMED）で承認された研究課題；個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究（受付番号 2406）にて取得したデータを用います。対象はこの研究に 2017 年から 2024 年までに参加された 25,425 名の方です。

2. 研究目的・方法

研究期間：2025 年 4 月 1 日（倫理委員会承認後）から 2028 年 3 月 31 日

対象：2017 年から 2024 年までに上記研究にエントリーした方（25,425 名）

目的は血清抗体値によるヘリコバクターピロリ（ピロリ菌）感染診断に使用される二つの血清抗体価法；酵素免疫測定法（enzyme immune-assay；EIA）とラテックス凝集法（latex immunoturbidimetric assay；LIA）に胃酸分泌抑制薬が与える影響を評価し、今後、主流になると予想される LIA 法による感染診断法を確立することです。

方法は EIS 法の血清ピロリ抗体価と LIA 法の測定値が、胃酸分泌抑制薬の内服の有無、X 線・上部内視鏡検査で評価した胃萎縮度、年齢・性別に影響受けるかどうか調べます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

ピロリ菌の血清抗体価測定値、X 線・上部内視鏡検査画像と検査所見、年齢、性別、内服薬情報等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

宮城県対がん協会 がん検診センター 022-263-1525

研究責任者 浅沼清孝